



【目的・概要】

「新庄まつり」は、毎年8月24日から26日まで3日間にわたって開催され、東北の夏祭りをしめくくる伝統の祭りとして、50万人でにぎわう。平成21年には、国重要無形民俗文化財に指定され、平成28年には、ユネスコの登録として、さらに知名度は上昇している。

そのまつりのメインを飾るのが豪華絢爛な山車（やたい）パレードであるが、本講義では、新庄まつりについて学び、そして、学生が主体となるタウンミーティングを開催し、若い力でまつりのPRに多に貢献してほしい。

また、まつり本番を控え、街中がまつり一色となっている新庄市を体感してもらい、地域の伝統を誇る「新庄まつり」の魅力を、大学生の視点で探してほしい。

【授業計画】

訪問1回目 2019年6月22日、23日

(22日) オリエンテーション、まつり講義

(23日) 新庄まつりを知る

訪問2回目 2019年7月13日、14日

(13日) タウンミーティング準備

(14日) タウンミーティング開催

【講師】

新庄まつりサポーター 'S、羽賀 千尋、野川 北山（山車人形師）

【受講定員】（最小開講人数）

12名（5名）

【費用の目安】

訪問1回目 2,000円程度＋食事代実費別途

訪問2回目 2,000円程度＋食事代実費別途



※ 昨年度実施された同様のプログラム受講にかかった費用を参考にしています。
今年度の費用は、この金額から変わる可能性があります。

昨年度受講生の感想 工学部 Sさん

「新庄祭り」は毎年8月24日から26日までの三日間にわたって開催され平成28年には、ユネスコ無形文化遺産に登録された260年を超えるまつりです。今回の活動では新庄祭りのファンを増やすために私たちが出来ることを考え4つの企画を立案しました。

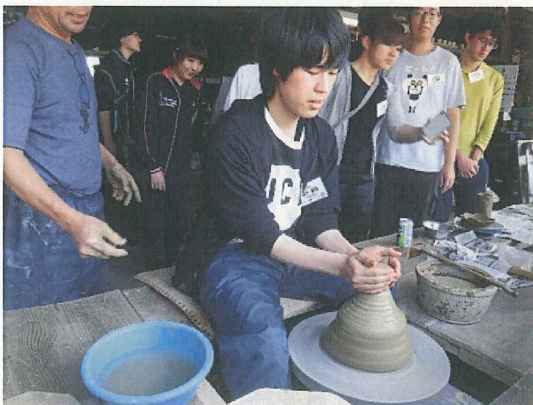
1. 「From Yamagata university to Sinjo festival」

2. 「賑取りわっしょい」

3. 「ゴミ拾い感謝!!!」

4. 「第2回新庄祭りイケメンランプリ in 轎子若連」

今回の活動で実際に企画を立案しそれを実現するのはとても大変だと実感しました。でもこの伝統ある新庄祭りの企画立案に参加できたことは普段では絶対に出来ない体験だし、仲間と助け合いながらタウンミーティングまで準備を進め、成功し達成感と喜びを味わうことが出来ました。今回の活動で得たことを大学生活や社会に出たときに活かせるようにしたいです。



【目的・概要】

1842年の開窯以来、5代にわたり受け継がれてきた新庄東山焼の伝統と芸術性あふれる焼き物の魅力を体験することができる。東山焼ならではの土や釉薬作り、焼き方等を6代目が分かりやすく解説する。ろくろ回し体験や自分の作った作品を記念に残すことができるのも本プログラムの魅力の一つである。

【授業計画】

訪問1回目 2019年5月18日、19日

(18日) 1 講義 焼き物の歴史

2 山から粘土取り

3 匠の実演：ろくろ回し体験

(19日) 1 各地の有名な焼き物比較

2 皿づくり実習

3 ろくろ回し体験②

訪問2回目 平2019年6月22日、23日

(22日) 1 講義 釉薬の歴史

2 釉薬調合体験

3 釉薬を焼き物につける体験

(23日) 1 本焼き作業：窯つめ&窯焚き

2 活動総括

【講師】

新庄東山焼弥瓶窯 涌井 正和

【受講定員】（最小開講人数）

12名（5名）

【費用の目安】

訪問1回目 3,500円程度＋食事代実費別途

訪問2回目 2,000円程度＋食事代実費別途



※ 昨年度実施された同様のプログラム受講にかかった費用を参考にしています。
今年度の費用は、この金額から変わる可能性があります。

昨年度受講生の感想 地域教育文化学部 Sさん

私はこのフィールドワークに参加し、心から物事に打ち込むことの魅力を学びました。

この四日間にはわたる作成を通して、東山焼を陶芸品としてだけではなく、人の心が作り出す伝統工芸品としてたくさんの人に知ってほしいと思いました。自分たちにもできることを考えていきたいです。そして、社会人への階段を上り始めた今、涌井さんのものづくりに対する心、人に対する感謝の気持ちを肌で感じさせていただいた経験を大切にして自分自身も実行していけるようになりたいです。

前期③ 地域の資源を活かし山屋の魅力を探る



【目的・概要】

山屋地区を舞台として、この時期に旬を迎える筍（たけのこ）を味わう“たけのこまつり”への参加、また、空蔵山登山やキャンプ場での活動、薬師堂や観音菩薩の歴史遺産の探索など、さまざまな体験を通して当地区のもつ豊かな自然や歴史を学んでもらう。そして、地域住民や子ども達との交流を通して、地域資源を活かした山屋地区の魅力を探ってもらう。

【授業計画】

訪問1回目 2019年6月1日、2日

- (6/1) 空蔵山登山
山菜収穫
山菜下処理
- (6/2) セミナーハウス環境整備
※体育館扉清掃
※デザイン考察
地区住民の方と交流

訪問2回目 2019年7月6日、7月7日

- (7/6) セミナーハウス環境整備
※体育館扉ペイント
- (7/7) 山屋地区めぐり
地区住民の方と交流

【講師】

山屋地区有志の会 会長 押切 明弘

【受講定員】(最小開講人数)

10名(5名)

【費用の目安】

訪問1回目 5,000円程度(食事代込み)

訪問2回目 5,000円程度(食事代込み)

❗ 昨年度実施された同様のプログラム受講にかかった費用を参考にしています。
今年度の費用は、この金額から変わる可能性があります。

昨年度受講生の感想 人文社会科学部 Kさん

私は母校の小中学校が数年前に廃校になったということもあり、山屋セミナーハウスとはどんなものなのかと興味を持ってこのフィールドワークに参加した。課題を見つけ、解決策を探し出すことがこの授業の大きい目的のひとつだが、地域の方々に大切に思われ、現在も比較的活発に利用されている山屋セミナーハウスは、現段階でも廃校活用の手本に十分なり得るものだと感じた。ただ、目標のひとつにしている利用者の増加を達成するには、より多くの情報発信が必要だと考えられる。その方法には、たとえばSNSの利用やホームページの情報の充実が望まれると思うが、まずは今あるものを使って存在を知ってもらうために、私は特にホームページの充実が重要だと感じる。しかし、この問題は何かひとつのことをしたからといって簡単に解決できるものではないため、さらに考え続ける必要があると思った。

前期④ マルシェ“本活プロジェクト”～本と人をつなげる出前図書館～



【目的・概要】

新庄市エコロジーガーデン内で行われる「kitokito マルシェ」は“買うだけじゃない。売るだけじゃない。手作りされた物を通して人と人が触れあう場所。そして時間”を大切に今年で8年目の開催となりました。そのマルシェに市立図書館も移動図書館車「かやの木号」に本とお話しをのせ、出前図書館として参加し、本と人をつなげるコミュニティ作り(本活)を行っています。

図書館から飛び出し、青空の下、季節を感じながら、おはなし会やワークショップ、そして「kitokito books」(カフェに隣接のシェアブックス)のアプローチなど、大学生の視点と感性でマルシェでの本活と一緒に企画運営してみませんか。

【授業計画】

訪問1回目 2019年5月18日、5月19日

- (18日) 図書館オリエンテーション、「kitokito マルシェ」会場視察、読み聞かせ講座、ワークショップ準備など
- (19日) 「kitokito マルシェ」参加、出前図書館体験、kitokito books サポーター

訪問2回目 2019年6月15日、6月16日

- (15日) 読み聞かせ実践、ワークショップ企画準備
- (16日) kitokito マルシェ出前図書館運営、
図書館ワークショップ 出店、
kitokito books サポーター

【講師】

一般社団法人とらいあ (新庄市立図書館指定管理団体)
新庄市立図書館 館長 高橋一枝

【受講定員】(最小開講人数)

10名(5名)

【費用の目安】

訪問1回目 3,500円程度+食事代実費別途

訪問2回目 2,000円程度+食事代実費別途

❗ 昨年度実施された同様のプログラム受講にかかった費用を参考にしています。
今年度の費用は、この金額から変わる可能性があります。

昨年度受講生の感想 理学部 Wさん

2回のフィールドワークを通して様々な人と出会い、新庄市で多くの経験をしています。思ったこととして「とても新庄市には温かい人が多い」ということが挙げられる。特に2回目の活動の際には私達の提案を快く受けていただき、とても充実した活動内容となった。その中で新庄市内の商店街に出向く機会がありそこでは「100円商店街」が行われていた。そのときに会った人の話で「いつもは人通りが少ないんだよね」というものがあった。最上地域でも人口減少や過疎化問題となっているという話は耳にはしていたが、実際に新庄市に訪れて改めて再認識した。新庄市の現在の課題というのはいまよりそこに滞留するように思われた。そこで新庄市という規模の大きいものではなく今回お世話になった「新庄市立図書館」に焦点を当てることで私達でも何かしらの力になれるのではないかと考えた。

前期⑤ 山間地で感性を豊かにしよう



【目的・概要】

自然豊かな山間地の環境で、日常生活の中で無意識に感じている視覚・聴覚・味覚・触覚・嗅覚を意識的に体験し、本来持っている感性を豊かにする。

【授業計画】

訪問1回目 2019年6月8日、9日

講義：カメラの操作学習
実習：風景・街並みの撮影
そば打ち体験
観察：ほたる観察

訪問2回目 2019年7月13日、14日

講義：写真コンクール審査会
実習：わら細工制作
交流会：ライブコンサート

【講師】

須藤功、石井芳五郎、高橋伸一、斎藤正昭、中野光雄、須藤幸一、岸末吾、岸吉三郎、岸浩樹、柿崎喜一、樋口勝也、小野花子、岸ミツ子、柴田学

【受講定員】（最小開講人数）

10名（6名）

【費用の目安】

訪問1回目 7,000円程度（食事代含む）

訪問2回目 7,000円程度（食事代含む）

！ 昨年度実施された同様のプログラム受講にかかった費用を参考にしています。
今年度の費用は、この金額から変わる可能性があります。

昨年度受講生の感想 人文社会科学部 Aさん

わたしは今まで経験したことのない、ホテル観察とホームステイに惹かれて参加した。暗闇で光る小さなホテルの光景は、今後ずっと目に焼きついているだろう。優しいお父さんと明るくて元気なお母さんのホームステイではBBQをしていただいたり、自炊のコンなども教わったりした。
またホームステイを含め用意していただいた食事思い出した。普段食べない、ゼンマイ、ミス、フキなどの山菜はとてもおいしかった。縛りや巻きづくり、そば打ちなど、すべてが貴重な体験となり、充実できたのは、グループのメンバーやサポーターさん、金山町の方々のみんなのおかげなのでしっかりと感謝したい。

前期⑥ 歴史的地域資源の保存と活用を考える



【目的・概要】

目的：地元史跡保存会のガイドのもと、散策道や坑道の整備活動を通じて谷口銀山が繁栄していた当時の様子を探ります

概要：金山町に現存する谷口銀山跡に入り、銀山の歴史を体感していただきます。地元の有志で構成される、谷口銀山史跡保存会の会長から銀山の歴史を学び、同時に銀山周辺、坑道内の整備活動を体験し、歴史的地域資源の保存と活用を模索していきます。

【授業計画】

訪問1回目 2019年5月11日、12日

講話「谷口銀山の歴史講座」
銀山内部とその周辺の探索
吉次山登山
坑道内周辺の環境整備（坑道内の清掃など）

訪問2回目 2019年7月13日、14日

銀山坑道周辺の整備（草刈り等）
坑道入口の整備
保存会メンバーとの交流会

【講師】

谷口銀山史跡保存会 会長 井上敬助

【受講定員】（最小開講人数）

8名（5名）

【費用の目安】

訪問1回目 8,000円程度（食事代含む）

訪問2回目 8,000円程度（食事代含む）

！ 過去実施された同様のプログラム受講にかかった費用を参考にしています。
今年度の費用は、この金額から変わる可能性があります。

過去受講生の感想 理学部 Mさん

今回の活動で谷口銀山と金山町に接することで様々なことを学ぶことが出来た。金山町には銀山以外にも沢山の自然があり、とても良いところだと思った。地域の方と交流することにより優しさにも触れることができ、金山町の魅力を感じることが出来た。銀山の伝統を守っている保存会の方々、金山町について詳しく話をしてくれた地域の方々から金山町に対する愛が感じられ、金山町のことをとても大切に思っていることが伝わった。この伝統をいかに私たちが引き継いでいくか考えることが必要だと思う。今後金山町とかかわらせて頂くことによりこの地域の活性化のために何か出来るか考えていくことが、金山町の良さを守ることに繋がると思う。



【目的・概要】

遊学の森は、金山町有屋地内であり、森と人との共生をテーマに、地域活用資源の掘り起こしから地域振興へ・生物多様性から地域振興へ・地域の衣食住の伝承から地域振興への3本柱で地域貢献に取り組んでおりますが、地元住民が当たり前という認識であり、地域住民の醸成にうまくつながっておりません。そこで、学生の新鮮な感覚で地域を捉え宝物が集積されれば地域活性化の一助につながると考えております。

そこで、当会では、地域と連携をとりながら、学生の皆さんと交流する機会を設定し、新たな地域文化を創造していきたいと思っていますので、皆さんのお知恵と行動力に期待しています。

【授業計画】

訪問1回目 2019年5月11日、12日

- ・講話「金山町の自然を知る」
- ・実習 地味探検
- ・実習 食の体験（山菜）

訪問2回目 2019年6月8日、9日

- ・講話「有屋地域の文化に触れる」
- ・実習 下向まつり
- ・実習 有屋少年音楽伝統芸能に触れる

【講師】

遊学の森案内人会ボランティアのみなさん及び地域住民

【受講定員】（最小開講人数）

10名（6名）

【費用の目安】

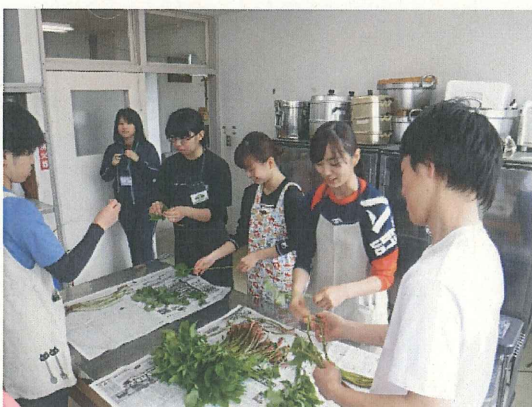
訪問1回目 8,500円程度（食事代含む）

訪問2回目 8,500円程度（食事代含む）

① 昨年度実施された同様のプログラム受講にかかった費用を参考にしています。今年度の費用は、この金額から変わる可能性があります。

昨年度受講生の感想 農学部 Oさん

私はこのもがみのフィールドワークを、自然が好き、また将来は地域活性化に携わることのできる仕事をしたいと考えていたので興味があり参加しました。今回の活動では、地域政策や地元の子供から高齢の方々との交流、地元のお祭りなどを体験することができました。また、課題として地域の魅力を地元の方に伝えるためのマップの作成に挑戦させてもらっています。



【目的】

少子高齢化に伴う人口減少等、町にはさまざまな課題が存在する。その中で『少子』の部分に着目し、子どもたちに提供しているプログラムをともに体験することにより、より良い方向性を探る。また、世代間交流や自然文化体験を通して、社会性や感受性を高め、楽しみながら最上町を知り、好きになってもらう。

【概要】

町の大堀地区活性化のために活動している NPO 法人山と川の学校と活動し、自然体験や伝統的な文化体験をし、最上町を知る。

放課後子ども教室『わんぱく学校』の活動に参加し、子どもたちと交流を図る。

【授業計画】

訪問1回目 2019年5月18日、19日

- 最上町放課後子ども教室わんぱく学校に参加 田植え体験を予定
- 炭焼き体験(変更の可能性あり)。

訪問2回目 2019年6月15日、16日

- 最上町放課後子ども教室わんぱく学校に参加
- 地域の方々との交流(変更の可能性あり)

【講師】

NPO法人山と川の学校

【受講定員】（最小開講人数）

10名（5名）

【費用の目安】

訪問1回目 4,500円程度+食事代実費別途

訪問2回目 6,000円程度+食事代実費別途

① 昨年度実施された同様のプログラム受講にかかった費用を参考にしています。今年度の費用は、この金額から変わる可能性があります。

昨年度受講生の感想 理学部 Tさん

フィールドワークの内容としては普段体験することのできない、炭焼き体験、キノコの栽培、ピザ窯でのピザ作り、槍ヶ岳ハイキングなどの貴重な体験をすることができました。特に槍ヶ岳ハイキングでは自分から学生の中には感じることもできなかったスタッフの仕事の重要性や、農学部生や大場さんによる今の日本の山についての話など、今まで知らなかった数々の新しい情報を得ることができてよかったと思います。フィールドワーク全体を通して1回目の食事の時や2回目のバーベキューの時にアスバラガスが頻出していて、最上町はアスバラガスが有名だということを知り、具体的な活動以外の面でも最上の特徴を知ることができました。一方で今、最上町が抱えている課題を現地の皆さんに聞くこともできました。やはり日本全国の過疎地域でもいえることですが少子高齢化が一番の課題だと思いました。そして、それに伴って自己PR力が低いと感じました。具体的な解決策としては、農業に興味のある若者に力をつけて農地を貸し出したり、今回のフィールドワークのような自然に触れながら最上の現状をしっかりと理解できるようなイベントを催したりすることだと思っています。



【目的・概要】

農村が抱える過疎化対策を地域自らが主体となって取り組む地域活性化策を習得することとする。

荒廃した農地等の再生を共に活動することによって、受講者自らが考案する農村の再生策を提言としてまとめることを目標とする。

○地域学講座（堀内地域の将来ビジョン）

○生物多様性の環境保全活動

○食と農の体験活動

【授業計画】

訪問 1 回目 2019年5月25、26日

野菜の播種、定植活動

訪問 2 回目 平成30年6月1、2日

野菜の播種、定植活動

【講師】

堀内ファーム会員及び地域住民

【受講定員】（最小開講人数）

10名（3名）

【費用の目安】

訪問 1 回目 7,000円程度（食事代含む）

訪問 2 回目 7,000円程度（食事代含む）

❗ 昨年度実施された同様のプログラム受講にかかった費用を参考にしています。
今年度の費用は、この金額から変わる可能性があります。

昨年度受講生の感想 農学部 Sさん

堀内ファームとは、少子高齢化や若者の農業離れ等によって失われつつある集落の運営を持続、発展させるために結成した組織である。彼らは農業生産サービスとして、近隣や都市部の町内会、加工業者、産直等とJAを介さず直接契約して作物を栽培する手法をとっている。このことによりJAを介したときにかかるコストが抑えられ、生産者にとっても消費者にとっても良い条件で商品をやりとりできるようにする。また、雪害冷蔵、貯蔵プロジェクトも行っている。これは、野菜を低温環境にさらし、雪氷熱エネルギーにより甘熟にして「旨み」をつけて地域特産品作りを目指すプロジェクトである。

私はこれらの話を聞いたとき、インターネットに載せるなどでもっと広く舟形町でやっているプロジェクトについて知ってもらえれば良いのではないかと考えた。そこで、全国の一般家庭と契約栽培をできるようにはないのですかと聞いてみた。すると、堀内ファームはまだ始まったばかりでネット上でのクレーム対応等ができる状態ではないし、人と人とのつながりを大切にできる「対面販売」をしたいという返答をいただいた。私はこの話から、ただ利益のためだけに闇雲に野菜を売って町を発展させるのではなく舟形にすんでいる人、舟形を知っている人と作物を通してやりとりをするという、地域作りをしていく上で大切なことに少し気付けたと感じた。



【目的】

雪国里山の自然と農業や生活文化を体験し、学んだことや感じたことに基に、若者の視点から真室川町の課題、その解決策について考え発表する。その活動を通して、現代における豊かな暮らしをつくる生き方働き方について考察を深める。

【概要】

真室川町の体験を通して、町の人々の取り組みや現状を実感し、地域の農業や農村での暮らしなどについて理解を深める。

全体の活動を通して、若者の視点から地域の課題、その解決策について考え発表する。

【授業計画】

訪問 1 回目 2019年6月8、9日

- ・中村湿原の保全活動
- ・希少動植物観察

訪問 2 回目 2019年7月6、7日

- ・郷土料理づくり体験
- ・学生による提言発表会

【講師】

中村湿原を守る会 会長 高橋喜久美 氏 ほか

【受講定員】（最小開講人数）

10名（8名）

【費用の目安】

訪問 1 回目 9,000円程度（食事代含む）

訪問 2 回目 9,000円程度（食事代含む）

❗ 昨年度実施された同様のプログラム受講にかかった費用を参考にしています。
今年度の費用は、この金額から変わる可能性があります。

昨年度受講生の感想 工学部 Hさん

フィールドワークをする以前の私は「豊かな暮らし」とは、お金がたくさんあり、便利なものを用いて楽をし、欲しいものが手に入ることだと考えていた。しかし、真室川ではそうではなかった。真室川町では、自分の利益を考えず、地域と密接に関わり、お互いに助け合う生活をしている。実際に私達が世元の食材を使って料理体験をしているときも地域の方に、キャベツ、米、ニンニクを無償でいただいた。そこで私は人の温かさを感じ、自分の利益ばかりを考えている自分の生き方が恥ずかしくなった。真室川町では普段体験できないような農業体験、わら細工体験、トロロコ乗車体験をすることができた。また生き方や働き方についてたくさん学ぶことができた。魅力がたくさんあり、人の温かさを感じることができた真室川町がもっと世の中に知ってもらえるように大学生の視点から課題を提言していきたいと思った。

前期⑩ 子どもの自然体験支援講座 1



【目的】

子どもの自然体験活動支援に携わることで子どもの姿を感じ、同時に学び手としての自分自身を振り返り、今後の生活につなぐきっかけにする。

【概要】

1 回目は小学校3・4年生を対象としたキャンプ「わんぱく探検隊」、2 回目は幼児～小学校2 年生までを対象にした「めんごキャンプ」に班付きスタッフとして参加し、子どもの体験活動を支援する。

【授業計画】

訪問1 回目 2019年6月1日、2日

企画事業「わんぱく探検隊」活動支援（小学3・4年生対象）

- ・班付きスタッフ
- ・野外炊飯
- ・テント泊
- ・野遊び
- ・トレッキング など

訪問2 回目 2019年6月29日、30日

企画事業「めんごキャンプ」活動支援（幼児～小学2年生対象）

- ・班付きスタッフ
- ・野外炊飯
- ・テント泊
- ・野遊び など

【講師】

山形県神室少年自然の家職員

【受講定員】（最小開講人数）

14名（7名）

【費用の目安】

訪問1 回目 5,000円程度（食事代含む）

訪問2 回目 5,000円程度（食事代含む）

❶ 昨年度実施された同様のプログラム受講にかかった費用を参考にしています。
今年度の費用は、この金額から変わる可能性があります。

昨年度受講生の感想 農学部 Mさん

大学生の考える企画というものがあった。それはベースはあるものの自分たちが主体となって神室の自然を生かした活動していくというものだった。当日になって急に活動を考えてと言われたものの、各自活発に意見を交換し合っており小学生に楽しんでもらえるような活動にするために話し合いを進めていき、帰ってからも昼休みなどを利用して内容を深めていった。たった一泊二日の活動の支援なのにこんなに準備することがあることはとても驚いた。

前期⑪ 大蔵村の生活と伝統の継承



【目的・概要】

このプログラムは次の3つのことを目的とします。

- ① 棚田百選に選ばれた四ヶ村の棚田について、棚田米を作ることで地域を守ることに対する住民の思いや考えを学ぶこと。
- ② 伝統芸能である合海田植え踊りの伝承活動において、地域の人々の思いを想像し、地域の生活と伝統芸能との関わりを考えること。
- ③ 講師をしてくださる地域住民の方々との交流を通して、人の魅力・温かさを感じてもらうこと。

具体的には、次のようなことを行います。

- ・四ヶ村の棚田で田植え体験
（四ヶ村で生活する意義と心構えについて）
- ・合海田植え踊り体験、見学（伝統芸能の伝承について）
- ・ほう葉めし作り体験、笹巻き作り体験（米の食文化）
- ・文化財めぐり、肘折温泉の学習（村全体の歴史・文化）

【授業計画】

訪問1 回目 2019年5月25日、26日

- ・四ヶ村の棚田で田植え体験（実習）
- ・合海田植え踊りの伝承活動について（実習）
- ・ほう葉めし作り体験（実習）
- ・文化財めぐり（実習）

訪問2 回目 2019年6月1日、2日

- ・合海田植え踊り見学（実習）
- ・笹巻き作り体験（実習）
- ・肘折温泉の学習（実習）

【講師】

地域住民の方々

【受講定員】（最小開講人数）

15名（5名）

【費用の目安】

訪問1 回目 5,500円程度（食事代含む）

訪問2 回目 5,500円程度（食事代含む）

❶ 昨年度実施された同様のプログラム受講にかかった費用を参考にしています。
今年度の費用は、この金額から変わる可能性があります。

昨年度受講生の感想 人文社会科学部 Eさん

大蔵村には多くの伝統や文化があった。清水城跡や地蔵倉や肘折温泉など今回の学習でもたくさん場所を訪れた。また、ほう葉めしや笹巻きや山菜などの食文化についても触れられた。個人的に一番印象的であったのは合海田植え踊りである。毎年6月の第一日曜日に地域内のすべての家々に訪れ踊るということで、人口が多くないからこそできる伝統であり、地域が一体となっているのがよく伝わった。私にとって人口が少ないということはデメリットでしかないと考えていたためとても驚かされた。



【目的・概要】

鮭川歌舞伎はかつて、京塚、石名坂、上大淵、川口の4地区に伝えられ、祭りなどで披露することにより継承されていました。しかし、時代の流れとともに、各地区での活動は衰退してしまいました。「わか村の伝統芝居をなんとしても続けていきたい。」この思いから昭和46年に「鮭川歌舞伎保存会」が結成され、以後、伝承活動に取り組んでいます。このプログラムでは、上記地区でその名残を辿り、現在に至るまでの歴史を振り返ります。そして、実際の定期公演を体験し、今後の継承や保存・活用についてのアイデアを考えてもらいます。

【授業計画】

訪問1回目 2019年6月8日、9日

鮭川歌舞伎を体験する

- ・鮭川歌舞伎定期公演の準備・運営・見学
- ・保存会員からの聞き取り

訪問2回目 平2019年6月22日、23日

鮭川歌舞伎について調べる

- ・地区での聞き取り
- ・史料研究
- ・企画の発表

【講師】

鮭川歌舞伎保存会 会長 佐藤 成一

鮭川歌舞伎保存会 座長 高橋 眞一

【受講定員】(最小開講人数)

7名(5名)

【費用の目安】

訪問1回目 7,000円程度(食事代含む)

訪問2回目 9,000円程度(食事代含む)

❗ 昨年度実施された同様のプログラム受講にかかった費用を参考にしています。今年度の費用は、この金額から変わる可能性があります。

昨年度受講生の感想 工学部 Kさん

私は鮭川村へ行く前に事前に調べたことだが、東北地方で2位の水質を誇る鮭川、自然豊かであり、美しい景色の多い場所であるため、鮭川村では自然に触れながら、伝統文化を学べることはとても良い経験になると思い、この講義に臨んだ。鮭川村での4日間の講義では、伝統ある鮭川歌舞伎や村文化財の見学、といった他ではなかなか体験することが出来ないことをした。



【目的・概要】

1回目は、幸齢者のみなさんとメダカ池の環境整備をし、2回目はほたる祭りや炭焼き等を行います。特にほたる祭りについては、企画運営を担っていただきます。これらのプログラムを通して、学生のみならずには、コミュニケーション能力や企画力、プレゼン能力、協調性等を育む一助となれればと思います。地域においては、この事業を実施する上で、地域のいろんな団体、人の協力や知恵が必要となることから、地域の活性化やコミュニティーの再生が図られると思われます。

【授業計画】

訪問1回目 2019年5月25日、26日

- ・古口地区の歴史、地域活動等の座学
- ・メダカ保護池等の整備や荒廃農地を復元し作付け。
- ・ほたる祭りの企画会議。

訪問2回目 2019年6月22日、23日

- ・笹巻づくり。
- ・ほたる祭りの開催。
- ・炭焼き小屋周辺整備とピザづくり。

【講師】

北の妙創郷大学 学長 菊地清一

乙夜塾 塾長 門脇憲一

古口地区自治 会長 寺内恵一

【受講定員】(最小開講人数)

15名(10名)

【費用の目安】

訪問1回目 7,000円程度(食事代含む)

訪問2回目 7,000円程度(食事代含む)

❗ 昨年度実施された同様のプログラム受講にかかった費用を参考にしています。今年度の費用は、この金額から変わる可能性があります。

昨年度受講生の感想 人文社会科学部 Sさん

2回のフィールドワークの中で、私は戸沢村の高齢者の方々がなぜ「幸齢者」というテーマでフィールドワークを行ったのかを考えた。実際に戸沢村で活動して考えられた理由は2つある。1つ目は自分が必要とされる環境だからである。こうしたフィールドワークを実施し、学生に戸沢村の文化や歴史を伝える役目を担ってもらうことで高齢者の方々が活躍する機会が増える。このような機会から自分が必要とされていると感じられることが幸せと表現される所以なのかと感じた。2つ目は地域の子どもたちの繁栄である。戸沢村では地域が一丸となって子どもの育成を行う「共育」を推進しており、実際に私たち学生だけでなく地域の小中学生に対しても伝統文化を伝えたり戸沢村を発展させるためには何か必要かといったプレゼンをさせるなどの様々な取り組みをしている。こうした「共育」の中で地域の子どもの若々しさに触れることで、高齢者の方々も若々しく活動できるのでないかと考えた。



【目的・概要】

四方を山々に囲まれた戸沢村角川地域は豊かな自然に恵まれ、山菜・キノコや林産物など山からの恵みも豊富です。この里地・里山を守り、豊かな資源を利用する活動に取り組む。ナラ枯れ防止に資するキノコの原木としての利用、杉林の間伐・除伐、山菜採り・山菜料理づくりなどの活動を体験する。また、山岳信仰で栄えた角川地域のパワースポット「角川の大杉」「浄の滝トレッキング」を行う。

【授業計画】

訪問1回目 2019年5月18日、19日

一日目は、地元産そば粉を使った手打ちそばを体験。午後は、里山自然観察と山菜採り（わらび・ウドなど）を行う。

二日目、午前には山菜を使った料理づくりを行う。午後は檜の原木にキノコの植菌を行う。

訪問2回目 2019年6月22日、23日

一日目、午前には山菜採り（ミズ・ひきなど）とそれを使った料理づくり。午後は杉林の間伐・除伐を行う。

二日目は、角川のパワースポット「浄の滝」へのトレッキングを行う。

【講師】

NPO法人田舎体験塾つのかの里事務局及び地元講師

【受講定員】（最小開講人数）

12名（7名）

【費用の目安】

訪問1回目 10,000円程度（食事代含む）

訪問2回目 10,000円程度（食事代含む）

❗ 昨年度実施された同様のプログラム受講にかかった費用を参考にしています。今年度の費用は、この金額から変わる可能性があります。

昨年度受講生の感想 農学部 Hさん

戸沢村は、山に囲まれており、おいしい山菜がたくさん採れる場所。はじめの活動はそば打ち体験をした。戸沢村では、昔から家庭内でそば打ちをしており、伝統になっている。次に山菜採りと山菜料理を作った。山菜はクセが強く、下ごしらえをしなければ、山菜が固くなってしまい、山菜の風味がなくなってしまうため、きちんと下ごしらえをしないと分かった。次に炭小屋を見学した。昔の戸沢村では炭を燃料にしていたが、石油が使われるようになると炭の消費量は減ってしまった。現在では、炭窯で炭を作れる人は数人に減ってしまっているため、とても残念だと思った。次に木の伐採をした。初めての体験だったこともあり、木が倒れていく様子は衝撃的だった。また、伐採後に林の中に入ってくる光が多くなったことを感じたため、木と人は共存していかなければならないと強く思った。



【目的・概要】

当地域で栽培されている伝承野菜のエゴマの播種・からとり芋の定植を行う。本村の「戸沢村エゴマの会」が運営するエゴマの搾油場を見学する。野菜の持つ栄養価・滋養効果などを学ぶ。古くは山岳信仰で栄えた角川のパワースポットである「浄の滝」へのトレッキングを行い、歴史や亜高山帯植物に触れて頂く。

【授業計画】

訪問1回目 2019年6月8日、9日

目は、地元産そば粉を使った手打ちそばを体験。午後は、エゴマの播種、からとり芋の定植を行う。

二日目は角川のパワースポット「浄の滝」へのトレッキングを行う。

訪問2回目 2019年7月13日、14日

一日目、午前にはエゴマ苗の定植。午後は野菜の種まき・苗の定植を行う。

二日目、午前にはエゴマ搾油場の視察及び圃場整備畑地化団地の野菜栽培地の視察を行う。午後は畑の管理作業を行う。

【講師】

NPO法人田舎体験塾つのかの里事務局及び地元講師

【受講定員】（最小開講人数）

12名（7名）

【費用の目安】

訪問1回目 10,000円程度（食事代含む）

訪問2回目 10,000円程度（食事代含む）

❗ 昨年度実施された同様のプログラム受講にかかった費用を参考にしています。今年度の費用は、この金額から変わる可能性があります。

昨年度受講生の感想 工学部 Tさん

始めの事前学習ではインターネットを用いて戸沢村について調べましたが、実際に足を運んで見なければわからないことがたくさんあり少子高齢化はもちろんのこと伝承が途絶えないような取り組みをしなければいけないことが一番の課題であると思いました。そのためには、そこに住んでいる人々だけではなく外部からきた人たちが戸沢村で学んだことを発信していき、今回のフィールドワークが一度だけではなく今後も繋がりを持ったまま将来に生かしていきたいと考えました。フィールドワークだけではなく今後の活動にも積極的に参加して山形でしか味わえないことに足を踏み入れてみたいと思いました。